

商学部における特色ある学部教育の補助「国内実態調査」 報告書

テーマ： サイクルツーリズムの推進をめぐる現状と課題～しまなみ海道を事例として～

科目名： 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

担当教員： 関根正敏

調査先： 広島県尾道市

調査期間： 2025年9月10日(水) ～ 2025年9月12日(金)

参加学生数： 1年生 0名 2年生 0名 3年生 11名 4年生 6名

17

調査の趣旨（目的）

近年、スポーツツーリズムという単語が注目されるようになり、旅行の中にスポーツという枠組みが入り込んできている。スポーツというコンテンツへの関わり方は多様で、スポーツを主目的として、旅行を楽しむのか、旅行をメインで楽しむ中にスポーツの要素を取り込むのか、さまざまな視点からもスポーツツーリズムが展開されてきている。こうしたスポーツツーリズムの特徴にマッチするのがサイクリング（自転車）というコンテンツであり、多くの人に親しみがあり、スポーツと移動手段を兼ね備えることで、観光にまつわる多くの場面で取り入れられる可能性がある。今回は、こうしたサイクルツーリズムの可能性や、現場での推進上の課題を探るべく、サイクリングの推進地域として全国でも先駆的な【広島県尾道市】にて合宿を行う。合宿を通じて、フィールドリサーチの方法について実体験するなど、ゼミナールで求められるスキルの習得も目指す。

調査結果

9月10日から12日にかけて、尾道市本土およびしまなみ海道周辺地域において調査を実施した。

第1日__尾道市街地の景観と歴史調査：初日は千光寺周辺を散策した。尾道市特有の坂の多い地形が美しい景観を形成していることを再確認した。また、千光寺の「文学のこみち」には、しまなみの風景を詠んだ詩歌が数多く残されており、歴史と文化が息づく街並みであることを深く理解した。

第2日__行政へのヒアリング調査：2日目は、尾道市役所産業部観光課の川本惇央様よりご講演をいただいた。広域連携:しまなみサイクリングにおける地域住民、広島県、および今治市との協力体制について伺った。かつては尾道市が主導していた宣伝活動も、現在は広島県が「県の強み」として主導的に推進している現状が明らかになった。

観光課題:現時点で深刻なオーバーツーリズムは発生していないものの、桜のシーズン等には深刻な渋滞が発生し、駐車に1時間を要する事例があるなど、局所的な課題を確認した。

地域住民の反応:サイクリング振興に対して、住民側がおおむね肯定的であるというお話が印象的であった。

第3日__サイクリングの実践調査3日目は、実際に3つの島を巡るサイクリング（約30km）を実施した。

利便性とアクセシビリティ:初心者でも「手ぶら」で容易に挑戦できる環境が整っていることが最大の魅力だと感じた。運動不足の学生も含まれていたが、4時間で全員が怪我なく走破できたことは、サイクリングのハードルの低さを証明する結果となった。

インフラ整備:道路に引かれた「ブルーライン」による誘導が極めて効果的であり、マップを確認せずとも走行できる工夫がなされていた。このラインは、自動車側にも自転車の存在を意識させる効果があり、安全な共存に寄与していると考察した。

事後活動

合宿終了後、ゼミ生によるグループワークを実施した。調査結果をもとに、尾道市の地域活性化に資する企画案を取りまとめ、尾道市役所へ提案・報告を行った。